

(13) 宿根かすみそう

ア 各病害虫の防除

うどんこ病

疫病

こぶ病

アブラムシ類

アザミウマ類

シロイチモジヨトウ

ナスハモグリバエ

ヨトウムシ類

ハダニ類

ア 各病害虫の防除

【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

うどんこ病

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 微生物農薬を予防的に散布する。
- 2 薬剤を施用（散布）する。

疫病

(耕種的・物理的防除)

- 1 排水の悪い場所では栽培しない。
- 2 ベッドをやや高うねにして、株元が乾く栽培をする。
- 3 高温時に発生しやすいので、ハウスを高温にしない。
- 4 発病株は丁寧に抜き取る。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を施用（散布）する。

こぶ病

(耕種的・物理的防除)

- 1 無病苗を用いる。
- 2 発病ほ場の親株から挿し芽を採らない。

アブラムシ類

(耕種的・物理的防除)

- 1 育苗時からアブラムシ類の発生に注意する。黄色粘着テープを施設の出入口や開口部の近く、若しくは苗の近くにつるし、有翅(し)成虫が飛来していないか確認する。
- 2 近紫外線除去フィルムは成虫の飛来を減らす効果があるので、これらのフィルムを施設の外張りやトンネルに使用する。
- 3 施設では、側窓や天窓などの開口部に寒冷紗や防虫ネット等を張り、成虫の飛来を防ぐ。
- 4 マルチをする場合は、シルバーポリマルチなど忌避効果のあるものを使用する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 気門封鎖剤を散布する。
- 2 くん煙剤の使用については、[共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用法の項](#)を参照する。
- 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。

アザミウマ類

・[共通防除の章のアザミウマ類の防除の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 施設内への侵入を防ぐため、開口部に防虫ネットを展張する。育苗期の被覆も有効である。ほぼ完全に侵入を阻止するには、目合い0.4mm以下の防虫ネットが必要である。
- 2 ほ場周辺の雑草を除去する。
- 3 粘着テープにより成虫を誘殺する。本種は特に青色に誘引される。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬は予防的に散布する。

※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。

※アザミウマの生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。

- 2 キルパーを用いた病害虫まん延防止 ([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項の「キルパーを用いた前作の古株](#)

[枯死、病害虫まん延防止](#)」を参照) ([農薬登録情報](#))

- 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。

シロイチモジヨトウ

・[共通防除の章のシロイチモジヨトウの防除の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 捕殺に努める。
- 2 成虫は長距離移動する場合があるため、周辺の発生ほ場からの飛来も十分考えられる。したがって、施設などでは防虫網を設置し、成虫の侵入を防止する。
- 3 交信かく乱剤を活用した防除を行う。

(薬剤防除) [農薬登録情報【シロイチモジヨトウ】・【ヨトウムシ類】](#)

- 1 本種は薬剤抵抗性が発達しており有効薬剤は非常に少なく、また幼虫は2齢になると、ねぎなどでは葉に穴を空け葉内に潜り込んで食害するため、薬剤散布を実施する場合も散布適期が非常に短い。そのため、ほ場での発生をよく観察し、幼虫のふ化に合わせて薬剤散布を実施しなければならない。
- 2 交信かく乱剤を活用する。
- 3 若齢幼虫期のうちに、薬剤を施用(散布)する。

ナスハモグリバエ

・[共通防除の章のハモグリバエ類の防除の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 薬剤防除のみでは防除が困難であるため、耕種的・物理的防除法も組み合わせて実施する。
- 2 成虫は黄色に強く誘引される性質があるので、黄色粘着板を用いて発生をモニタリングし、初期防除を徹底する。
- 3 成虫の侵入を防止するため、施設開口部には防虫ネットを設置する。また、紫外線カットフィルムの利用も有効である。
- 4 ほ場周辺部の雑草などにも寄生するので、特にキク科雑草を除去する等、ほ場衛生に努める。
- 5 収穫後の被害残さは発生源となるので、土中に埋設するか、ビニール被覆し熱処理を行う。
- 6 収穫終了後、地表の蛹の防除対策として、施設を密閉し土壌表面をビニール等で被覆することにより蒸し込む。水分のある植物がない状態で最低地温40℃以上が数日続けば、蛹はほぼ死滅し、羽化成虫も1日で死滅する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。

ヨトウムシ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 交信かく乱剤を活用する。
- 2 若齢幼虫のうちに、薬剤を施用(散布)する。

ハダニ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 気門封鎖剤を散布する。
- 2 くん煙剤の使用については、[共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用方の項](#)を参照する。
- 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。